

研究報告

弾き歌いの指導における簡易伴奏の研究

——アンケート調査に基づく簡易伴奏スタイルの分析——

武 藤 純 子・大 西 ゆ み・喜 多 ち え・幸 野 紀 子

堀 崎 峰 子・由 井 敦 子・坂 井 康 子

Simplified Accompaniment Styles for Simultaneously Singing and Playing the Piano:
An Analysis of Student SurveysMUTO Junko, ONISHI Yumi, KITA Chie, KONO Noriko,
HORISAKI Mineko, YOSHII Atsuko and SAKAI Yasuko

Abstract : This study explores technical difficulties experienced by college students while simultaneously singing and playing the piano (hereinafter SSPP). In addition, it investigates simplified piano accompaniment styles that students can acquire in an effective way during piano lessons offered in the Department of Childhood Development and Education at Konan Women's University. The number of freshmen who have no experience in playing the piano has been increasing year after year. Since SSPP is recognized as an indispensable activity in nursery schools and kindergartens, the performance of SSPP is frequently required during employment examinations for teachers. Based on the results of student surveys conducted during our course "Instrumental Performance and Singing II," which was offered in the spring semester of 2018, we propose practical and useful simplified accompaniment styles that can be used to train students. This training can have an immediate effect in nursery schools and kindergartens.

Key Words : Music education, Simultaneously singing and playing the piano, Simplified piano accompaniment, Nursery and kindergarten teacher training

要旨 : 本研究の目的は、甲南女子大学人間科学部総合子ども学科における保育士、幼稚園・小学校教員養成課程でのピアノ指導において、学生が弾き歌いをする際の技術的に困難な点について明らかにし、効率的に習得できる簡易伴奏スタイルについて考察することである。本学科への入学時のピアノ初心者数は年々増加傾向にあるのに対し、保育・教育での現場では弾き歌いを中心とした音楽活動が重要な位置を占めており、採用試験で課題となることも多い。そこで本研究では、2018年度の「器楽・声楽Ⅱ」の授業において実施した弾き歌いの簡易伴奏に関するアンケート分析結果に基づき、現場で即戦力となる学生を育成するための簡易伴奏スタイルについて提案する。

キーワード : 音楽教育, 弾き歌い, 簡易伴奏, 保育者・幼稚園教諭養成

I はじめに

本研究は、甲南女子大学人間科学部総合子ども学科「器楽・声楽Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」の授業で行った弾き歌いの簡易伴奏に関するアンケートを基に、学生の演奏の実態とその困難な点について明らかにする。「衣川ほか2017」による「学生の音楽経験と既知曲の傾向」の研究¹では、2011年～2015年に本学科を履修した学生の2割弱が、大学入学時に鍵盤楽器の経験の無い初心者であり、実技に対する不安感は大きいと答えている。一般に、ピアノ演奏技術の習得は時間と労力のかかるものであるが、歌いながら弾く「弾き歌い」技術の習得は初心者の学生にとって困難と不安をもたらすことは間違いない。しかしながら、ピアノ伴奏を付けながら子どもと共に歌う「弾き歌い」は保育・教育現場での活動の中心であり、学生にとってその技術の習得は必須である。また、「衣川ほか2016」の「採用試験の内容に関するアンケート」で示されているように、採用試験のピアノ実技課題曲・自由曲・初見として、バイエルなどの教則本からではなく、「こどもの歌」の指定が多く見られるなど、近年は採用試験でも弾き歌いの重要性は増している²。そこで本研究では弾き歌いの簡易伴奏スタイルについてのアンケート分析を行い、その分析結果に基づき、初心者の学生に、大学での授業内という限られた時間枠の中で、効率的に弾き歌いを指導する為の、習得しやすい簡易伴奏スタイルについて考察する。

II ピアノ指導カリキュラムの概要

本学科での「器楽・声楽Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ(Ⅰ,Ⅱは必修、Ⅲは選択科目)」の授業は、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の養成を目的とし、それぞれ1年次後期、2年次前期、3年次前期の半期(各15回)ずつで構成される。各回90分の授業の内訳は、ピアノ指導を3-4人のグループレッスンで45分(1人当たり10分から15分程度)、伴奏のためのコード理論や変奏のための基礎、歌唱などを40人ほどの全体講義で45分行っている。

ピアノ指導のグループレッスンは、教則本、リズム曲、弾き歌いの3つのカテゴリーで構成される。教則本は、バイエル教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバムから学生のレベルに応じて一定数以上を習得する³。リズム曲については、やさしく実用性の高い『3コードでOK なるほどかんたん!リズム曲集～保育・教育現場で楽しく弾けてすぐに役立つ～』⁴を使い、

「歩く」、「走る」、「とぶ」、「ゆれる」の4種の動きのリズム曲を習得する。弾き歌いでは、18曲(初心者)から30曲(ソナチネレベルの経験者)の弾き歌い曲を習得する。弾き歌いのテキストは、右手でメロディーを弾き、左手で簡易伴奏を弾く片手伴奏形⁵が中心の『教育・保育現場で毎日使える コードでかんたん!こどものうた マイ・レパートリー』(以下、『マイ・レパートリー』)⁶と、歌のメロディーに対してピアノが両手で独立した伴奏を弾く両手伴奏形が中心の『幼稚園教諭、保育士、小学校教員をめざす人のためのピアノテキスト-歌おう♪弾こう♪こどもとともに』(以下、『歌おう弾こう』)⁷を使用している。弾き歌いでは、どちらのテキストの場合でも基本的には楽譜通りの伴奏で指導しているが、『マイ・レパートリー』の伴奏は簡易伴奏となっている為、初心者の学生はこのテキストを使うことが多い。また、『歌おう弾こう』のように両手で独立した伴奏を弾きながら、別の独立したメロディーを歌う弾き歌いは、ピアノの演奏技術的にも、歌唱技術的にも難しいということが、初心者が『マイ・レパートリー』から選曲する理由となっている。更にテキストとは別に、初心者には「器楽・声楽Ⅰ」の初期のピアノ指導の中で、Ⅰ,Ⅳ,Ⅴの3コードのコード進行のみを左手で弾く練習を導入し、コードを見て弾くことに慣れるよう指導している。

III 「コード伴奏」・「簡易伴奏」の定義と導入の傾向

保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の多くの養成校が、弾き歌いの指導でコード伴奏・簡易伴奏を導入している⁸。「コード伴奏」と「簡易伴奏」はしばしば同義に使われるが、本稿では次のように定義する。「コード伴奏」は主にコードの構成音のみを伴奏として弾く伴奏形を指す。このコードの構成音による伴奏形には、ベース音(和音の根音)のみを単音で弾く場合や、コードの構成音のうち2音や3音を同時和音として弾く場合、また、その和音をアルベルティ・バスのように分散和音として弾く場合も含む。更に、これらのコード構成音にリズムをつける場合もある。一方「簡易伴奏」は、オリジナルの伴奏に比べ音やリズムを省略するなどして簡易にされた伴奏形全般を指す。コードの構成音を弾くことが中心ではあるが、クロマティックな進行など非和声音も含み、リズムに関しても自由にアレンジされている場合がある。「簡易伴奏」には「コード伴奏」も含むものとする。

「木下 2015」ではコード伴奏の導入結果を分析しているが、学生に提示したコード伴奏は①-単音（リズム無し）、②-二つの音の同時和音（リズム無し）、③-三つの音の同時和音で、所謂三和音（リズム無し）、④-③のバリエーション（分散和音）となっており、音を1音から徐々に増やしていく構成である⁹。「坪能ほか 2016」によるコード伴奏を導入したレッスンカリキュラムでは、「木下 2015」と同様に単音から2音、3音と伴奏音を増やしていくが、次には右手で3音、左手でベース音1音の合計4音を両手伴奏として演奏する伴奏形を導入している¹⁰。「小西ほか 2016」に資料として紹介されている簡易伴奏の「アレンジのコツ」では、コードのベース音を単音で、コードが変わる時と小節が変わる時だけ弾くというコード伴奏を一番簡単なアレンジとして、続いて単音であってもリズムに躍動感のあるコード伴奏のアレンジ、オリジナルの両手伴奏からオクターブの重音を抜いて右手を歌のメロディーに変えた簡易伴奏アレンジを提案している¹¹。更に、小学校学習指導要領準拠の『最新初等科音楽教育法』でも、コード伴奏の導入順として、ベース音による単音伴奏から始め、和音による伴奏を導入している¹²。本研究で実施したアンケートは、以上のコード伴奏・簡易伴奏の導入・研究事例を参考に作成・実施されたものである。

Ⅳ アンケート調査方法と質問内容

今回の「弾き歌いの伴奏についてのアンケート」は、学生が1週間に30分という短時間でどのレベルまで習得することが出来るか、又、どのような伴奏パターンに難しさを感じるかを明らかにするためのものである。調査の対象は、器楽・声楽Ⅱを履修中の学生161名（2年生156名、3年生5名）で、そのうち有効回答は153名分であった。アンケートは、2018年5月22日の授業内で配布、同月29日の授業内で回収して実施した。配布から回収までの期間は1週間である。本学科では、1年時の9月から器楽・声楽Ⅰの授業が開始される為、アンケート時には調査対象学生の大多数が2年生であり、その中でもピアノ初心者の学生にとっては「器楽・声楽Ⅰ」の授業で初めてピアノを練習してから8か月の時点となる。

アンケートに当たっては、質問用紙と一緒に、弾き歌い曲1曲を5パターンに伴奏をアレンジして添付した。この5パターンの伴奏アレンジは、前章での導入事例や先行研究に基づいた難易度順とした。この弾き歌い

曲は、アンケート用紙配布から回収までの1週間で、合計30分の練習時間という制限を定め、1番のパターンから始めて何番のパターンまで達成出来たかを調査した。1番が弾けるようになってから2番へ、2番が弾けるようになってからその次へと進むように指示を出した。アンケート回収時には、学生が1番のパターンから順にクラスで演奏することで担当教員が達成状況を確認した。アンケートの質問項目は、次の5点である。1. 大学入学までのピアノ経験：未経験・1年未満・1～4年・5～10年・10年以上のどれか？ 2. 1週間での弾き歌い曲の達成状況：1番から5番のうち、何番のパターンまで弾けたか？ 3. 弾き歌いの伴奏で難しさを感じる時：和音を弾く・和音が変わる・和音の位置（ポジション）が跳躍する・シャープやフラット（黒鍵）を弾く・リズムの形が途中で変わる・その他（自由記述）のどれか？（複数回答可） 4. 左手の伴奏形：単音伴奏と和音伴奏のどちらが弾きやすいか？ 5. 添付の楽譜を練習して難しかった箇所を、自由な形式で楽譜に直接書き込む。アンケートは以上の5点を記入後に提出とした。アンケートの質問は資料1として末尾に、アンケート添付の楽譜は譜例1-5として以下に示している。

アンケート添付の弾き歌い曲は、「器楽・声楽」の授業の指定教材である『歌おう弾こう』の中から、〈ちゅうりっぷ〉、〈大きなくりの木の下で〉、〈どんぐりころころ〉、〈山の音楽家〉、〈森のくまさん〉を選んだ。この5曲は、「衣川ほか 2017」による歌唱教材の既知曲の研究で示されているように¹³、80%以上の学生が大学以前に知っていた子どもの歌と答えているものである為、メロディーの練習にあまり時間を要さずに、伴奏に集中できると考えられる。又、5曲とも、テキストの中ではメロディーにコードネームのみ記載されており、伴奏パートが付いていない為、学生が伴奏形の先入観なしで取り組めると考えられる。

アンケートでは右手でメロディーを、左手で伴奏を弾く片手伴奏形の弾き歌いとしたが、伴奏の譜読み作業も含めての習得状況を調査するために、敢えてコードネームを付けない楽譜を用意した。5パターンの伴奏アレンジは次の通りである。1番目は単音伴奏で、4分音符、又は、2分音符によるシンプルな拍子に即したリズムを中心としたアレンジとした。更に、左手のポジションを動かさずに弾けるように、音の跳躍があまり無いように配慮した。2番目は同じく単音伴奏であるが、8分音符のリズムや音の跳躍を含むアレンジとした。3番目は3音から成る三和音による伴奏で、I、IV、V、V₇の和音（稀にセカンダリードミナントを含む）

に4分音符、又は、2分音符の拍子に即したリズムを用いた。和音の3音は、左手のポジション移動をなるべく回避出来るような配置とした。4番目は3音から成る和音伴奏を、必要に応じて分散形にし、同時に休符や8分音符を用いたリズムの動き等を含んだアレンジとした。和音のポジションの跳躍も用い、より広い音域の伴奏とした。5番目は自由なアレンジとし、シンコーションのリズム、16分音符のアルベルティ・バス、音の跳躍等、技術的に複雑な伴奏を用意した。前項で述べたように、コード伴奏の導入順としてベース音の単音によるコード伴奏が最も易しいアレンジと考えられる為、1番から5番のパターンの配列は、1番-単音シンプル→2番-単音アレンジ→3番-和音(三和音)シンプル→4番-和音アレンジ→5番-自由アレンジの順とした。つまり、1番と2番は単音によるコード伴奏、3番と4番は三和音を基本としたコード伴奏、5番は自由にアレンジした簡易伴奏となる。1番から3番までは比較的平易であるが、4番と5番はそれなりの練習が必要であると想定される。担当教員が譜例1-5のうち1曲をアンケートに添付して配布した。

譜例2 《大きなくりの木の下で》

1番・単音シンプル

2番・単音アレンジ

3番・和音シンプル

4番・和音アレンジ

5番・自由アレンジ

譜例1 《ちゅうりっぷ》

1番・単音シンプル

2番・単音アレンジ

3番・和音シンプル

4番・和音アレンジ

5番・自由アレンジ

譜例3 《どんぐりころころ》

1番・単音シンプル

2番・単音アレンジ

3番・和音シンプル

4番・和音アレンジ

5番・自由アレンジ

譜例 4 《山の音楽家》

1 番・単音シンプル

わ た し ゃ お ん が く か や ま の こ り す じ ょ う

2 番・単音アレンジ

わ た し ゃ お ん が く か や ま の こ り す じ ょ う

3 番・和音シンプル

わ た し ゃ お ん が く か や ま の こ り す じ ょ う

4 番・和音アレンジ

わ た し ゃ お ん が く か や ま の こ り す じ ょ う

5 番・自由アレンジ

わ た し ゃ お ん が く か や ま の こ り す じ ょ う

譜例 5 《森のくまさん》

1 番・単音シンプル

あ る - ひ も り の な か

2 番・単音アレンジ

あ る - ひ も り の な か

3 番・和音シンプル

あ る - ひ も り の な か

4 番・和音アレンジ

あ る - ひ も り の な か

5 番・自由アレンジ

あ る - ひ も り の な か

V アンケート調査結果と考察

ここではアンケート結果について、質問項目 1-4 の順に述べる。質問項目 5 の自由記述による回答は、末尾に資料 2 として示す。

1. 大学入学までのピアノ経験

まず初めに、学生のピアノ経験について述べる。図 1 に示したように、約 3 割の学生が大学に入学するまでピアノの経験がなく、初心者であることが分かる。ピアノ経験が 1 年未満の準初心者の学生を含めると、約 4 割が大学の授業で初めてピアノの練習を本格的に始めたと考えられる。一方で、ピアノ経験 5～10 年の学生は約 3 割、10 年以上の学生も約 1 割おり、合わせて約 4 割の学生はピアノ経験がある程度豊富と見られる。「衣川ほか 2017」による 2011 年～2015 年の学生の鍵盤楽器の学習経験年数データでは、経験のない学生は凡そ 14%～24%、一方で 4～8 年と 9 年以上経験の学生は 49%～67% の間で推移していた為、ピアノ経験の少ない学生が増加傾向にあることが窺われる。しかしながら、入学前のピアノ経験が必ずしも実力に結びつくわけではなく、演奏技術の習得は個人

差や指導によるところも大きい。本研究を通して、初心者でもしっかりと授業に取り組むことで、より短時間で効果的に課題曲を取得できるような指導に結びつきたいものである。

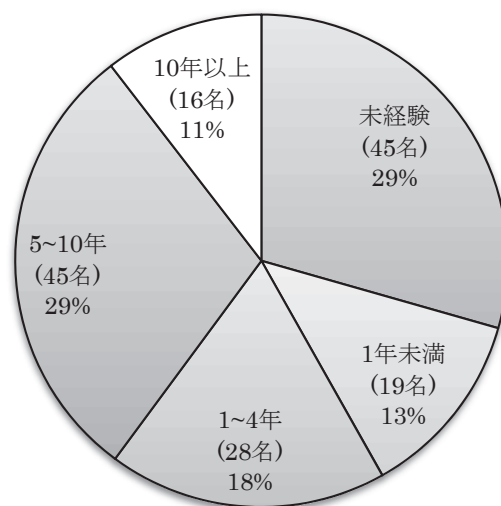


図 1 大学入学までのピアノ経験

2. 弾き歌い曲の達成状況

ここでは、アンケート対象の弾き歌い曲の達成状況について検討する。図 2 の 1 番上の段の「学生全体」は、調査対象の学生全体が 1 週間 30 分の練習で伴奏

パターン1番から5番のどこまで達成できたかをパーセンテージで表している。上から2番目の段の「未経験」から一番下の段の「10年以上」については、前節の図1で示した学生のピアノ経験年数別に達成状況を表している。

まず学生全体の達成状況だが、7割以上の学生が4番以上の曲まで達成出来ていることが分かる。3番以上とすると9割以上である。前節で述べたようにピアノ初心者と1年未満の準初心者の学生が約4割であり、初めは弾き歌いどころか両手でピアノを弾くこと自体が大変であったことを考えると、「器楽・声楽」の授業を始めて8か月にして、弾き歌い曲の習得がかなり速く出来

るようになったことが明らかである。経験別では、初心者と1年未満の学生はどちらも、4～5番まで達成できているのは約半数だが、経験1～4年の学生となると8割以上、経験5～10年の学生で9割以上、10年以上の経験者では全員が5番まで達成となっている。

次に曲別の達成状況について述べる。図3に示したように、曲によって達成状況には差異が認められる。《ちゅうりっぷ》、《大きなくりの木の下で》、《どんぐりころころ》では、1番～3番までしか達成できなかった学生は1割～2割だけであり、大多数の学生は4番～5番まで進んでいるが、《山の音楽家》、《森のくまさん》では、1番～3番までが4割

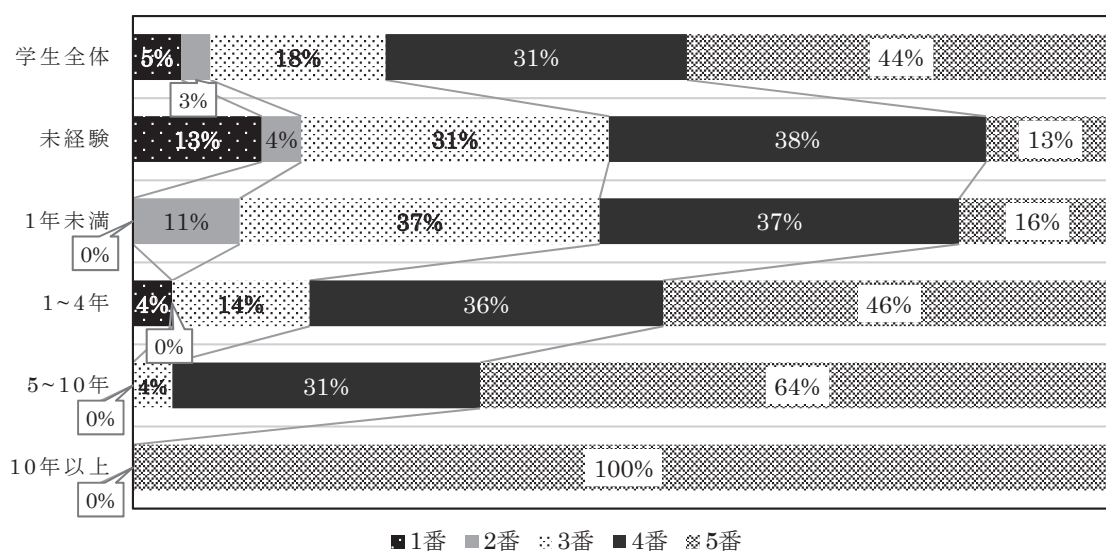


図2 経験年数別達成状況

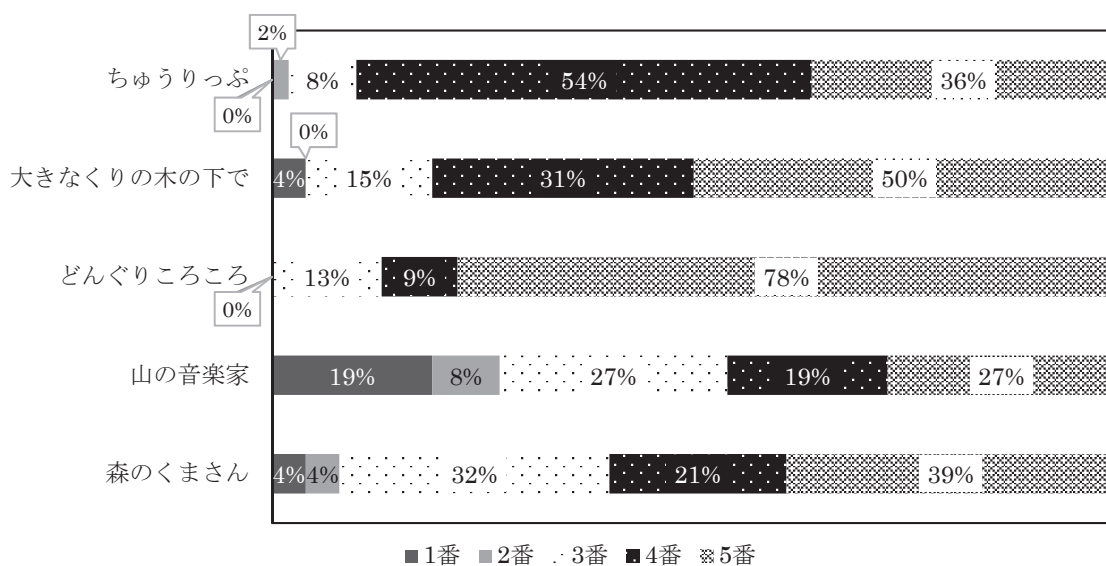


図3 曲別達成状況

～5割まで増えている。その理由はそれぞれの曲の難しかった箇所に関する自由回答から推察される。まず、《山の音楽家》と《森のくまさん》に共通して学生が難しいと回答した箇所は、次の2点である。①黒鍵のところ、②付点、アウフタクトや拍の頭の休符といったリズムに関するところ。①の黒鍵については、《山の音楽家》はハ長調のため必ずB \flat を弾かななくてはならないため、学生は伴奏に集中する以前に、メロディーを弾きづらいと感じたようだ。《森のくまさん》はハ長調であるが、冒頭からメロディーが臨時記号によるクロマティックな進行であるのに加え、2番・3番のパターンでは伴奏もクロマティック進行やセカンダリードミナントが含まれており、弾きづらさを感じる原因となっている。②のリズムについては、《山の音楽家》ではメロディーに含まれる付点のリズムやアウフタクトに加え、2番のパターンの伴奏2小節目の2拍目の頭の8分休符などが難しいと感じる要因となっている。《森のくまさん》ではメロディー冒頭の8分休符や、2番のパターンのようにメロディーに伴奏が合いの手を入れるような左右の手のリズムの違いが難しさの要因となっている。反対に、《ちゅうりっぷ》、《大きなくりの木の下で》、《どんぐりころころ》については、すべてハ長調で臨時記号も含まれていないこと、アウフタクトや拍の頭の休符などのリズムの難しさがないことなどが、大多数の学生が4番～5番まで進めたことの理由と考えられる¹⁴。

3. 弾き歌いの伴奏で難しさを感じる時

ここでは、「弾き歌いの伴奏で難しさを感じる時（複数回答）」について述べる。表1に示したように、予め設定した選択肢の中では、「和音の位置（ポジション）が跳躍する」に難しさを感じる学生が一番多く106名が回答、次いで「リズムの形が途中で変わる」、「和音が変わる」、「シャープやフラット（黒鍵）を弾く」が続く。反対に「和音を弾く」は最も少なく9名のみが回答した。この結果が示すのは、多くの学生は三和音を弾くこと自体にはさほど問題を感じていないが、その和音の跳躍や黒鍵が入るような変化、または、急なリズムパターンの変化などに困惑している様子が窺える。その他の自由回答の中から特筆すべきは、当初筆者らが想定した最も簡単だと思われる伴奏形である単音伴奏とそれに伴う単音の跳躍が難しいとの回答があったことである。これについては、次の項で詳しく検討する。

表1 弾き歌いの伴奏で難しさを感じる時（複数回答）

①和音を弾く	9名
②和音が変わる	55名
③和音の位置（ポジション）が跳躍する	106名
④シャープやフラット（黒鍵）を弾く	53名
⑤リズムの形が途中で変わる	93名
⑥その他（以下に自由記述） ・単音の伴奏 ・単音が跳躍する ・ベースの1音を押さえたまま、他の音を弾く ・曲の途中で伴奏の音型が変わる ・メロディーと伴奏のリズムが異なる	26名

4. 左手の伴奏形

アンケートの項目4では、左手伴奏形の違いによる難しさについて質問した。Ⅲ章では、コード伴奏の導入順としては単音（和音のベース音のみ）から始め、徐々に音を増やしていく（三和音など）というのが一般的な順序であることを述べた。そのため、筆者らは単音伴奏の方が和音伴奏より弾きやすいとの想定の下、アンケートを実施したのであるが、結果は想定とは大きく異なったものだった。図4に示したように、単音伴奏が弾きやすいと回答したのは、僅か6%であり、87%の学生は和音伴奏の方が弾きやすいと答えたのである。前項で紹介した「弾き歌いの伴奏で難しさを感じる時（複数回答）」でも和音伴奏を弾くこと自体に学生は困難を感じていなかったが、この87%の和音伴奏の方が弾きやすいという回答は、その前項の回答と矛盾してはいない。

単音伴奏が難しいと感じる理由について、アンケート項目5の楽譜への自由な直接書き込みの中から紹介する。《どんぐりころころ》の1番-単音シンプルでは、この「1番が一番弾きづらい」、「単音（伴奏）に慣れていないので戸惑う」との回答があった。《森のくまさん》の1番-単音シンプルでは「単音の伴奏は弾きづらい」、3番-和音シンプルでは「コードネームが書いていないのですぐに音符を読むのが難しい」との回答があった。《山の音楽家》の2番-単音アレンジでは、「和音で同時に弾かないのが難しい」との回答があった。更に、《大きなくりの木の下で》の2番-単音アレンジでは、単音の左手音符は「楽譜が読みづらい」との回答があった。また、《ちゅうりっぷ》の1番-単音シンプルでは、左手の単音伴奏にカタカナでドレミの書き込みが見られたが、3番-和音シンプルではドレミの書き込みは無く、和音であれば直ぐ

に譜読みが出来ることが分かる。

先のアンケート調査方法でも説明したが、このアンケートは本学科での「器楽・声楽Ⅱ」の授業の中で実施したものであり、「器楽・声楽Ⅰ」の授業開始から8か月目の時点でのことである。学生は毎週の授業で、45分のピアノグループレッスンに加えて、45分のコード理論や変奏のための基礎を受講しているため、一見ランダムに見える単音伴奏よりも、コードネームによる主にⅠ、Ⅳ、Ⅴの和音で構成される三和音の伴奏に慣れており、譜読みも速くできたのではないかと推察される。

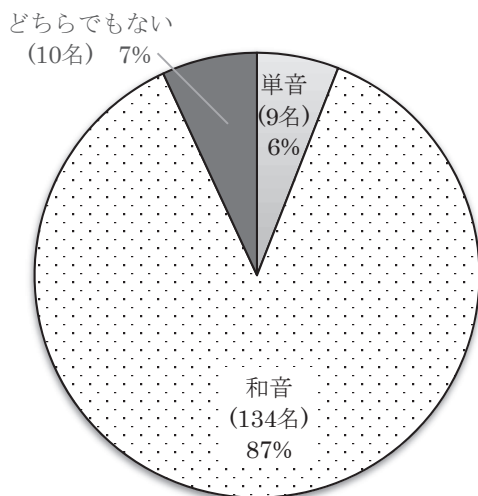


図4 単音伴奏と和音伴奏のどちらの方が弾きやすいか？

Ⅵ 習得しやすい簡易伴奏スタイルとは？

本稿では、簡易伴奏による弾き歌いの習得状況について、アンケート結果を基に、学生の大学入学以前のピアノ経験を反映しながら分析した。その結果から明らかになったのは、学生が弾きやすいと感じる簡易伴奏スタイルは、一般的に最初に導入される傾向のある単音による簡易伴奏スタイルとは異なっているということである。本執筆者らは、単音からなるコード伴奏の読譜が一番易しいと考えていたが、実際は学生にとって音符を一つ一つ読む作業は時間を要する。三和音によるコード伴奏であれば、音符を集合体として譜面から素早く把握することが出来、習得にも時間がかからないといった実態が浮かび上がってきた。ピアノ演奏の指導だけでなく、コード理論の講義など和音に関する授業時間が確保されているのも、今回の結果に貢献していると考えられる。

そこで今回の結果を踏まえて、初心者の学生に弾き

歌いを指導する際に導入しやすい簡易伴奏スタイルを提案したい。簡易伴奏①導入と②アレンジの2種類を提案する。譜例6-1は《大きなくりの木の下で》の簡易伴奏①導入である。最もシンプルな三和音によるコード伴奏とし、伴奏のリズムは、コードが変わるタイミングに合わせ4分音符としたため、とても元気の良い曲想となっている。曲全体が同じリズムで進むため、学生にとって難しさを感じる原因の一つであった「リズムの形が途中で変わる」ことも無くなり、右手のメロディーと歌に集中出来るようになる。譜例6-2は簡易伴奏②アレンジであるが、こちらはアルペルティ・バスによるコード伴奏としているため、全体がやわらかで、譜例6-1とは全く異なる仕上がりとなっている。譜例6-2の和音の種類は、譜例6-1と同じであるため、譜例6-1の練習後に取り組むと短時間で習得できると考えられる。

続いて、譜例7-1は《山の音楽家》の簡易伴奏①導入である。《大きなくりの木の下で》と同様に三和音によるコード伴奏とし、リズムは全て4分音符とした。同じコードが続く箇所もあるが、リズムを2分音符とすると曲の躍動感が失われてしまう為、敢えて全てのリズムを4分音符としている。譜例7-1を発展させ、簡易伴奏②アレンジにしたものが譜例7-2である。こちらは分散和音によるコード伴奏となっている。拍の頭を重音とし裏拍を単音にしているため、又、裏拍を比較的弱い小指で弾くような配置となっているため、自然な拍子感が生まれやすい伴奏となっている。更にこの譜例7-2では、冒頭のメロディー部分と対比させるために、9-12小節目を分散和音ではなく同時和音とし、リズム感を強調している。

譜例 6-1 《大きなくりの木の下で》
(簡易伴奏 ①導入)

寺島尚彦歌詞
イギリス民謡



譜例 6-2 《大きなくりの木の下で》
(簡易伴奏 ②アレンジ)

寺島尚彦作詞
イギリス民謡



譜例 7-1 《山の音楽家》
(簡易伴奏 ①導入)

水田詩仙作詞
ドイツ民謡



譜例 7-2 《山の音楽家》
(簡易伴奏 ②アレンジ)

水田詩仙作詞
ドイツ民謡



Ⅶ ま と め

今回のアンケート調査の結果、2018年度の本学科におけるピアノ初心者の学生数は約3割であり、ピアノ歴1年未満の準初心者も加えると、約4割の学生が

大学に入学後、初めて本格的にピアノに取り組むということが分かった。これは「衣川ほか2017」の2011年-2015年のデータを大きく上回る数字である。この急激な初心者数の増加に伴い、学生が限られた授業時間内で出来るだけ効率的に、無理なく弾き歌いを習得するための有用な簡易伴奏スタイルとその指導が切に求められる。アンケートのデータから明らかになったのは、9割近い学生にとって「三和音によるコード伴奏の方が、ベース音などの単音によるコード伴奏よりも弾きやすい」ということである。アンケートへの学生の自由記述から読み解くと、読譜的にも演奏技術的にも、シンプルな和音が一番弾きやすいスタイルであり、反対に単音は、読譜の大変さだけでなく音の動きを想定しづらいため、難しさを感じることも分かった。

Ⅶ章では、アンケート結果を反映させた簡易伴奏のスタイルを提案した。初めにシンプルなりズムの三和音によるコード伴奏を導入し、続いて曲想に合わせた分散和音などにアレンジしたコード伴奏の指導を行う。学生にとって曲の途中でパターン変化は難しさを感じる原因となるため、どちらのコード伴奏にも途中で急なりズム変更や音の跳躍などを含めないようにする。簡易伴奏スタイルを工夫し、短時間で効率的に習得出来るようにすることは、学生が弾き歌いにおいて、より音楽的な点に注意を注ぐ為に有用であると考えられる。

本稿では、学生が効率的に習得できる簡易伴奏スタイルについて考察してきたが、当然のことながら、自分の知らない曲を弾くための、そして現場での必要に応じて伴奏を既存の楽譜通りに弾くための読譜力も身に付けなくてはならない。その為には、様々な音楽的・技術的要素を含む弾き歌い曲のテキストを楽譜通りに弾く指導も継続する必要がある。また、バイエルを始めとした教則本を使った基礎の指導も欠かせない。しかしながら、今回の研究を土台とした、保育・教育の現場で用いられる様々なジャンルの弾き歌い曲に対応できる簡易伴奏スタイルは、即戦力となる人材を育成するにあたり、今後も積極的に導入していくべき重要な課題であると考えられる。

本研究は、坂井以下7人の共同研究である。アンケートの作成・分析は共同で行った。アンケート用楽譜の作成・アンケートの集計は、《ちゅうりっぷ》は喜多、《大きなくりの木の下で》は大西、《どんぐりころころ》は由井、《山の音楽家》は武藤、《森のくまさん》は堀崎が担当、簡易伴奏の作成は幸野、譜例の作図

は由井が担当した。執筆・図表作成は、坂井の監修の下、主に武藤が担当した。

注

- ¹ 鍵盤楽器経験についてのデータは「衣川ほか2017」の頁49図6を参照のこと。
- ² 「衣川ほか2016」の頁72表28を参照のこと。また、頁64の図10に示されているように、採用試験中の音楽の試験の内訳は、ピアノ実技が約7割、弾き歌いが約3割となっている。
- ³ この「器楽・声楽」の授業における教材の目標習得数についての詳細は、「衣川ほか2014」を参照のこと。
- ⁴ 坂井康子・岡林典子・南夏世・衣川久美子・古庵晶子・篠原真紀子・山崎和子・由井敦子(2015)『3コードでOK なるほどかんたん! リズム曲集〜保育・教育現場で楽しく弾けてすぐに役立つ〜』サール社
- ⁵ この片手伴奏形と次の両手伴奏形の内容については、2008年東京未来大学研究紀要第1号論文「ピアノによる子どもの歌伴奏の効果: アレンジによる伴奏法を考える」紙屋信義・後藤みゆきの68頁を参照のこと。
- ⁶ 坂井康子・岡林典子・南夏世・佐野仁美(2008)『教育・保育現場で毎日使える コードでかんたん! こどものうた マイ・レパートリー』ヤマハミュージックメディア
- ⁷ 坂井康子・岡林典子・南夏世・山崎和子(2006)『幼稚園教諭, 保育士, 小学校教員をめざす人のためのピアノテキスト-歌おう弾こうこどもとともに』ヤマハミュージックメディア
- ⁸ 以下の養成校ではコード伴奏・簡易伴奏の指導を導入している: 姫路獨協大学, 札幌大谷大学短期大学, 京都聖母学院短期大学, 日本女子大学, 別府大学短期大学, 鹿児島純心女子短期大学, 静岡県立大学短期大学。詳細は以下の文献を参照のこと: 「田中2018」, 「砂田2017」, 「竹下2017」, 「坪能ほか2016」, 「仲嶺ほか2016」, 「鶴巻2012」, 「宮脇ほか2006」。
- ⁹ 「木下2015」の頁75表1を参照のこと。
- ¹⁰ 「坪能ほか2016」の頁194-195のFig.1-5を参照のこと。
- ¹¹ 「小西ほか2016」の頁120-130を参照のこと。
- ¹² 『最新初等科音楽教育法』の頁212-213を参照のこと。
- ¹³ 「衣川ほか2017」の頁52-53の表2-4を参照のこと。
- ¹⁴ ≪どんぐりころころ≫の3小節目にはメロディーにシンコペーションが含まれるが、歌の歌詞に沿ったリズムとなっている為、問題なく弾けるようである。

参考文献

- 伊藤誠(2013)「歌唱教材(低学年教科用図書掲載219曲)における簡易伴奏譜の特徴と傾向: 主に『主要三和音の扱い』と『左手奏法』に着目して<教育科学>」埼玉大学紀要. 教育学部第62-2号
- 紙屋信義・後藤みゆき(2008)「ピアノによる子どもの歌伴奏の効果: アレンジによる伴奏法を考える」東京未来大学研究紀要第1号
- 衣川久美子・山崎和子・坂井康子(2014)「保育士, 幼稚園・小学校教員養成課程における「器楽・声楽」の指導-学

- 生の実態調査による2006年〜2013年の経年分析-」甲南女子大学研究紀要人間科学編第50号
- 衣川久美子・山崎和子・由井敦子(2016)「幼稚園・保育所(園)・小学校の採用試験における音楽に関する出題傾向-総合子ども学科2011年〜2014年の求人票の経年分析と就職状況-」甲南女子大学研究紀要人間科学編第52号
- 衣川久美子・山崎和子・由井敦子・坂井康子(2017)「総合子ども学科 学生の音楽経験と既知曲の傾向-2012年度〜2015年度 アンケート調査による比較分析-」甲南女子大学研究紀要人間科学編第53号
- 木下和彦(2015)「子供のうたの弾き歌い指導におけるコード伴奏の有用性」全国大学音楽教育学会研究紀要第26号
- 小西行郎・志村洋子・今川恭子・坂井康子(2016)『乳幼児の音楽表現: 赤ちゃんから始まる音環境の創造(保育士・幼稚園教諭養成課程)』中央法規出版
- 坂井康子・岡林典子・南夏世・山崎和子(2006)『幼稚園教諭, 保育士, 小学校教員をめざす人のためのピアノテキスト-歌おう弾こうこどもとともに』ヤマハミュージックメディア
- 坂井康子・岡林典子・南夏世・佐野仁美(2008)『教育・保育現場で毎日使える コードでかんたん! こどものうた マイ・レパートリー』ヤマハミュージックメディア
- 坂井康子・岡林典子・南夏世・衣川久美子・古庵晶子・篠原真紀子・山崎和子・由井敦子(2015)『3コードでOK なるほどかんたん! リズム曲集〜保育・教育現場で楽しく弾けてすぐに役立つ〜』サール社
- 砂田真理子(2017)「ピアノ初心者への心を開く子供の歌の実用伴奏法: 和声学に於けるカデンツとコード・ネームによる伴奏付けの比較から簡易伴奏の可能性を探る」札幌大谷大学短期大学部紀要第47号
- 竹下則子(2017)「保育者養成校における歌唱指導技術の育成」京都聖母学院短期大学研究紀要第46号
- 田中麻貴(2018)「ピアノ初心者に対する有効的な簡易伴奏法についての一考察: 和音記号学習とコードネーム学習の比較から」姫路獨協大学教職課程研究室第28号
- 坪能由紀子・木下和彦(2016)「音楽好き、ピアノ好きな未来の保育士・教師を育てるために: シンプルで効果的な、ピアノレッスンのカリキュラムをめざして」日本女子大学大学院紀要 家政学研究科・人間生活学研究科第22号
- 鶴巻保子(2012)「保育者養成のための音楽表現技術における学生の学び」鹿児島純心女子短期大学研究紀要第42号
- 仲嶺まり子・藤田光子・安部えつ子(2016)「こどものうた弾き歌い指導における進度別教材の活用に関する一考察: 『こどものうた簡易伴奏修』作成を通して」別府大学短期大学部紀要第35号
- 深見友紀子(2018)「2基礎的技能①伴奏法」初等科音楽教育研究会『最新初等科音楽教育法: 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』音楽之友社
- 宮脇長谷子・井口太・笠井かほる(1996)「保育者養成におけるピアノ指導に関する研究Ⅴ: 卒業生への追跡調査を通して」日本保育学会大会研究論文集第49号

宮脇長谷子（2001）「保育者養成におけるピアノ指導の現状と課題：養成校へのアンケート調査を通して」静岡県立大学短期大学部研究紀要第 15 - W 号

宮脇長谷子・八木名菜子（2006）「基礎技能（音楽）における技術指導についての一考察」静岡県立大学短期大学部研究紀要第 20 - W 号

資料 1 「弾き歌いの伴奏についてのアンケート」用紙

弾き歌いの伴奏についてのアンケート

「器楽・声楽」の授業をより良いものにするために、アンケートに協力してください。

配布楽譜を、1 週間で 30 分練習してください。まとめて 1 日で練習しても、毎日 5 分ずつ練習しても結構ですが、合計 30 分は守ってください。楽譜は 1 番から 5 番のパターンまでありますが、1 番から始めて、順番にできる番号まで練習して下さい。各番号とも人前で弾き歌いができるレベルになったら、次の番号に進んでください。難しかったところや弾けなかったところは、楽譜に赤で丸印を書いて、その理由を楽譜の余白に書いてください。このアンケートは、楽譜と一緒に次のレッスン時に提出してください。

学籍番号：_____ 名前：_____

曲名 【 _____ 】

1. 大学入学までのピアノ経験

未経験 1 年未満 1～4 年 5～10 年 10 年以上

2. 何番まで弾けましたか？

1 番 2 番 3 番 4 番 5 番

3. 弾き歌いの伴奏で、あなたが難しいと思うのは、どんな時ですか？（複数回答可）

- () ① 和音を弾く時
 () ② 和音が変わる時
 () ③ 和音の位置（ポジション）が跳躍する時
 () ④ シャープやフラット（黒鍵）を弾く時
 () ⑤ リズムの形が途中で変わる時
 () ⑥ その他 【 _____ 】

4. 弾き歌いの伴奏スタイルで弾きやすいのはどちらですか？

() 単音伴奏 () 和音伴奏 () どちらでもない

5. 難しかったところや弾けなかったところは、楽譜に赤で丸印を書いて、その理由を楽譜の余白に書いてください。

資料2 添付楽譜を練習して難しかった箇所（自由記述）

曲	番号	難しかった箇所（自由記述）
ちゅうりつぷ	5 番	音域が広くて指が届かず弾きづらい
		リズムが変わるとすぐに理解できず弾けない
		16分音符が連続したり、広い音域になっていたりして難しい
		右手と左手のリズムが合わせづらい
	3～5 番	4小節目でコードが変わるのが難しい
大きなくりの木の下で	1 番	単音伴奏の音の変化に対応出来ない。特に4と5の指を使い分けるのが難しい
	2 番	（単音の左手音符は）楽譜が読みづらい
		リズムが4分音符から8分音符へと急に変わる時のメロディーとの合わせ方やテンポが難しい
		単音伴奏のポジション変化に伴う指替えが難しい
	3 番	和音が変わる時に素早くポジションを変えるのが難しい
	4 番	2声になっている部分は和音を押さえながら、8分音符の音階を弾く指の運びが難しい
	5 番	伴奏のリズムパターンが急に変わる時の速さの設定が難しい
		8分音符の分散和音でポジションが飛ぶのが難しい
		マイナーコードなどの慣れない響への違和感
どんぐりころころ	1 番	1 番（単音伴奏）が一番弾きづらい
		単音（伴奏）に慣れていないので戸惑う
	3 番	和音が変わる時や、和音の位置が跳躍する時が弾きづらい
	4 番	右手のシンコペーションと左手のリズムが合わせづらい
		非和声音の16分音符は譜読みが大変
	5 番	分散和音の形が変化する箇所が掴みづらい
山の音楽家	2 番	和音で同時に弾かない（分散和音になっている）のが難しい
		単音伴奏が同音連打ではなく動くのが難しい
		指使いと指替えが難しい
	4 番	和音が1拍ごとに変わる
	5 番	臨時記号で間違える
		分散和音が根音で終わっていないのが違和感
森のくまさん	1 番	単音伴奏は弾きづらい
	1～2 番	メロディーの1拍目で8分休符になるところを、伴奏と一緒に弾いてしまう
	2 番	臨時記号が弾きづらい
	3 番	コードネームが書いていないのですぐに音符を読むのが難しい
	3～5 番	和音にbがあると弾きづらい
	5 番	伴奏のシンコペーションが難しい
		途中で和音伴奏から単音伴奏への切り替えが難しい